在宅における認知症高齢者の介護支援専門員からみた
これからの男性介護者支援のあり方についての研究
－インタビュー調査による男性介護者（配偶者・実子）の時代－

社会福祉学専攻　山屋　惠美子

要　旨

本研究は、認知症高齢者を介護する男性介護者が介護の困難さを感じている場合と、感じていない場合の違い及び男性介護者の介護負担感に及ぼす影響を検討し、男性介護者が心理的に困難なケースはどのようなことなのかを明らかにすることを目的とした。A 地区における全 150 の居宅介護支援事業所に属性や介護状況等に関する各項目からアンケート調査を実施し、その中から同意を得た事業所の所長に匿名にてインタビュー調査を行い、13 名のデータを分析した。その結果、以下のことが明らかになった。

1)　認知症高齢者を介護する男性介護者は、息子と二人家族が 30.76%、であった。三人家族（父親・息子）が 15.38%と、夫のみが介護している家族は、15.38%、その他、孫や甥、弟や長男、次男と男性のみで介護している家族は、38.46%であった。

2)認知症高齢者を介護する主介護者の負担感は、BPSD（認知症による行動・心理症状）、主介護者の健康状態、要介護者とのかかわり方に有意な関連がみられた。

3)特に男性介護者の精神的健康状態、発達障害、生育歴など大きくかかわりがあった。

4)男性介護者の地域とのかかわり、家族員同士の交流は、全くなかった。

これらのことから、認知症高齢者の男性介護者のためには、認知症高齢者の疾病の進行、症状に対するマネジメント、居宅介護支援専門員の男性介護者を含めた家族員の交流が促進することが重要であると考えられた。

分析方法はエスノグラフィーを参考にした。エスノグラフィーを用いたインタビューを参考に行ったエスノグラフィーワークのプロセスを示したものである。人々の日常生活の中から行動・思考のパターンを読み取り、カテゴライズしたうえで、各々のカテゴリーの特性を明らかにすることを通じ、法則・知見を得た。

介護支援専門員 13 人に対するインタビューの結果、男性介護者の特徴は【介護生活への覚悟】、【施設入所を検討】、【男性介護者の排泄への抵抗】、【母親との共依存】、【無関心、引きこもり】、【男性介護者の仕事、自由時間認知症】、【金銭的に困窮】、【加齢による自己の限界】の 8 項目に分類できた。

このことから、男性介護者の介護の困難さを感じている場合と、感じていない場合の違いは、生活歴の違いが大きく影響していることが明らかとなった。

夫婦関係や親子関係などが、密接すぎる関係であると、他者や介護サービスを受け入れることができず、離れすぎた関係は、家族の中で介護に無関心であった。

以上のように、男性介護者の特徴は、介護をひとりで抱え込み、孤立しやすい傾向にある。男性介護者と要介護者の関係性に焦点を当てることとした。